



第16回若手医師のための家庭医療学冬期セミナー

WS-01「明日から活用！“Positive Deviance”アプローチ」

【講師】

高柳 宏史（熊本大学病院 地域医療支援センタ）

河村 洋子（産業医科大学産業保健学部 安全衛生マネジメント）

鶴田 真三（天草地域医療センター総合診療科／

熊本大学病院地域医療・総合診療実践学寄附講座 天草教育拠点）

松田 圭史（小国公立病院 総合診療科）

皆さんは、「**Positive Deviance (PD)**」について聞いたことがありますか？

和訳すると「ポジティブな逸脱」となりますが、**PD**は世界各国で多様な社会的課題解決に活用されている方法論です。**PD**を活用する場面は多岐にわたり、地域における保健福祉活動など保健医療福祉分野のほか、一般企業における組織運営や経営の分野など、人の営みの存在する場を全てカバーすると言っても過言ではありません。

家庭医は地域において在宅医療、産業医、学校医、医師会活動、または災害発生時など地域における様々な場面において活動を行います。それらの活動に**PD**を活用することで新しい解決策を見いだせるようになるかもしれません。

このセッションでは、小講義の後に互いの地域活動について共有します。その経験から**PD**と一緒に発見していくワークを通して、より実践的に**PD**という方法論を学んでいきます。

さまざまな場面で役に立つ**PD**を楽しく一緒に学びましょう！